

おわりに

平成 17 年 3 月、国指定史跡『名越切通』第 1 切通の保存対策工事が完了しました。

これにより、崖面の崩落の危険性から、平成 8 年より通行禁止となっていた、切通路が全面開通し自由通行が可能となりました。

『名越切通』とは、鎌倉の東南部に連なる山稜を越えて逗子に出る地山の山頂部を開渠状に掘削した路で、所謂、鎌倉七口のひとつとして、鎌倉の地勢とその外部との連絡状況を示す重要な交通遺跡であります。

『名越切通』は他の七切通と比べ保存の状態がよく、中世都市外縁部の交通路の雰囲気残り、訪れる者に深い感慨を与えております。中でも、今回、保存工事を行った第 1 切通は、十メートルに及ぶ崖面が垂直に切り立ち、その姿はまさに圧巻の一語に尽きます。

アンカーボルトが効かない泥岩の崖面と、大きくオーバーハングし迫り出した砂岩の岩塊に対し、史跡の保存工事ゆえ、通常の急傾斜地に用いる類の土木工法の一切を封じられるという大きな制約の中で、史跡の本質的な価値を損なわず保存を施すことは、困難を極めました。施工前の様子をひとめ見た者は、その誰しものが、「保存工事の実施は不可能だ」と思ったに違いありません。

『壮大な遺構の景観を保存すること』、『安全な路の通行を確保すること』、この単純にして明確な命題の答えを出すために、綿密な調査、試験を繰り返し、現時点の史跡整備における土木工学、保存科学の粋を凝らしました。

脆弱で不安定だった崖面は、堅牢、頑丈へと姿を変え、誰もが安全で安心して史跡探索を楽しめるようになりました。史跡の「本質的な価値」をそのままに、守ることができたというこの成果は、現代に生きる私たちにとって、掛け替えの無い喜びであることは言うに及びません。

今ここに、工事報告書を上梓することができるのは、施工に向け微に入り細に入り検討を頂き、知識と経験を余すことなく注いでいただいた「崩落対策検討委員会」の各委員の先生方、指導助言をいただいた文化庁記念物課、神奈川県教育委員会の皆様、そして、遠く離れた逗子市教育委員会の不躰なお願いに、快く、調査・研究の成果をご提供くださった、全国自治体の史跡整備ご担当の皆様のおかげであります。ここに、心よりお礼を申し上げる次第でございます。

一方、今回の工事が完了したことで、第一切通の保存対策工事が終わった訳ではなく、定期的な経過観察や大雨や台風後等の状況確認は欠かせません。逗子層泥岩のスレーキングによる風化は、強化撥水処理により抑制されておりますが、撥水剤の効果は一般的に 4～5 年程度といわれており、定期的な再処理は不可避です。さらに、切通崖面上部の伐採した樹木が枯死した後には、伐根とそれによって生じた亀裂の充填処理が必要になります。

史跡の保存対策とは、経過観察（モニタリング）と修理（メンテナンス）の繰り返しであります。

『名越切通』における対策工事の考え方や進め方、具体の対策工法などについて、同様な史跡を抱える自治体の皆様に大いに活用され、全国規模における史跡整備の一助になればと考え、この報告書の刊行に至りました。石造文化財の保存対策事業の一例として、皆様の参考になれば幸いです。

平成 19 年 3 月 逗子市教育委員会

国指定史跡名越切通崩落対策工事報告書

発行日 2007年（平成19年）3月31日

発行 逗子市教育委員会

〒249-8686 神奈川県逗子市逗子5丁目2番16号

TEL.046-873-1111 FAX.046-872-3115

E-mail : gakusyuu@city.zushi.kanagawa.jp

印刷 横浜ハイテクプリンティング（株）
